

指導資料

道徳 第31号



鹿児島県総合教育センター
平成27年10月発行

対象
校種

幼稚園 小学校 中学校
高等学校 特別支援学校

学校の教育活動全体を通じて行う道徳教育 —各教科等で行う道徳教育の進め方—

道徳教育の充実に向けては、児童生徒の発達の段階や特性等を踏まえ、指導内容の重点化を図り、学校の教育活動全体を通じて意図的、計画的な指導を行うことが重要である。

今後、道徳教育の重点目標に基づき、各教科等の授業で重点化した指導内容をどのように指導すればよいのか、その具体例を紹介する。

1 学校の教育活動全体を通じて行う道徳教育の必要性

道徳教育が、学校の教育活動全体を通じて行うものであることは、『一部改正学習指導要領』（平成27年3月）においても一層重視され、第1章総則に次のように示されている。

第1 教育課程編成の一般方針

2 学校における道徳教育は、特別の教科である道徳（以下「道徳科」という。）を要として学校の教育活動全体を通じて行うものであり、道徳科はもとより、各教科、（外国語活動、）総合的な学習の時間及び特別活動のそれぞれの特質に応じて、生徒（児童）の発達の段階を考慮して、適切な指導を行わなければならない。

※（ ）は小学校学習指導要領のみ

ここには、道徳教育は、各教科等のそれぞれの特質に応じて適切に行われなくてはならないことが示されている。そして、道徳科は、各教科等で行う道徳教育としては取り扱う機会が十分でない内容項目に関わる指導を補充したり、深化したり、統合したりする役割を担っているのである。

2 各教科等で行う道徳教育を進めるための視点

各教科等には、それぞれ特有の目標や内容があり、それらは全て、児童生徒の豊かな人格の形成につながるものである。そのため、各教科等において、意図的、計画的な道徳教育を行うことが大切になってくる。

そこで、各教科等の指導を通じて児童生徒の道徳性を養うためには、教師の用いる言葉や児童生徒への接し方、授業に臨む姿勢や熱意といった教師の態度や行動による感化とともに、『学習指導要領解説総則編（抄）』（平成27年7月）において、次の二つの視点を挙げている。

(1) 道徳教育と各教科等の目標、内容及び教材との関わり

各教科等の目標、内容及び教材には、児童生徒の道徳性を養うことに関わりの深い事柄が含まれている。各教科等において道徳教育を適切に行うためには、それぞれの特質に応じて道徳の内容に関わ

る事項を明確にし、それらに含まれる道徳的価値を意識しながら学校独自の重点内容項目を踏まえて指導することが大切である。

(2) 学習活動や学習態度への配慮

各教科等では、それぞれの授業を通して児童生徒の学習態度や学習習慣を育てる。その視点から、児童生徒が伸び伸びとかつ真剣に学習に打ち込めるよう留意し、思いやりがあり、自主的かつ協力的な学級の雰囲気や人間関係となるよう配慮することが大切である。例えば、話し合いの中で自分の考えをしっかりと発表すると同時に友達の意見に耳を傾けること、各自で、あるいは協働して課題に最後まで取り組むことなどは、各教科等の学習効果を高めるとともに、望ましい道徳性を養うことにもつながる。

このように、児童生徒の学習活動や学習態度に関わる指導については、道徳的価値を視点にして行うことが考えられる。

なお、学校教育の様々な場面において、具体的な道徳的習慣や道徳的行為について指導を行うことがあるが、その際に最終的なねらいとしているのは、指導を通じてそれらの意義を理解させ、児童生徒自らの判断により、進んで適切な実践ができるような道徳性を養うことである。

3 全体計画の別葉の作成

学習指導要領では、各教科等における道徳教育についての内容及び時期を全体計画に示すこととされているが、全体計画の中に、具体的な指導の内容及び時期を示すことは容易ではない。

そこで、『学習指導要領解説総則編(抄)』には、以下のような工夫が例示されている。

全体計画を一覧表にして示す場合は、必要な各事項について文章化したり、具体化したりしたものに加えるなどの工夫が望まれる。

例えば、各教科等における道徳教育に関わる指導の内容及び時期を整理したもの、道徳教育に関わる体験活動や実践活動の時期等が一覧にできるもの、道徳教育の推進体制や家庭や地域社会等との連携のための活動等が分かるものを別葉にして加えるなどして、年間を通して具体的に活用しやすいものとすることが考えられる。

※ 下線は筆者が加筆している。

別葉を作成することで、道徳科での指導との関連が明確になり、各教科等における道徳教育を確実に行うことができるようになる。また、道徳科以外に、学校教育全体の道徳教育として、どの学年でどのような内容を指導しているのか、全ての教師がその進捗状況を把握することができ、組織的な道徳教育の推進も可能になる。

表1 全体計画の別葉(例)

第5学年

各教科等 内容項目	国語		社会		算数
		月		月	
B-(1) 「親切、思いやり」	「わらぐつの中の神様」登場人物の優しさや心遣いに触れ、思いやり的心を考える。	11月	「情報を生かすわたしたち」相手の立場に立って個人情報の大切さを考える。	1月	
B-(2) 「感謝」			「米づくりのさかんな地域」食糧生産に尽くす人の苦勞に触れ、感謝の気持ちをもつ。	9月	
B-(3) 「礼儀」	「敬語」敬語の使い方を通して礼儀の大切さを考える。	6月	「工業生産を支える」工場の人々に対する質問の仕方、接し方などを考える。	11月	「割合とグラフ」調査をするときの礼儀作法の大切さについて考える。
B-(4) 「友情、信頼」	「なまえつけてよ」登場人物の関わり合いから友情について考える。	4月			「図形の面積」友達と協力して求積の仕方を考える。

このように、別葉を作成することには重要な意義があり、各学校で作成する必要がある。

例示した表1は、各教科等における道德教育に関わる指導の内容及び時期を示した全体計画の別葉である。縦軸を道德の内容項目、横軸を教科と指導の時期として、それぞれ指導する単元等、指導の概要を示している。教科等の特質上、全ての教科で全ての内容項目について指導できるとは限らないため、空欄が生じることもあり得る。

別葉には定まった形式はないが、具体的に実際に活用しやすいものになるよう工夫することが大切である。

4 各教科等で行う道德教育の視点と手順

各教科等で道德教育を進めるためには、以下の視点と手順を進めるとよい。

- ① 各学校の具体的な道德教育の重点目標を設定する。
 (例) 相手のことを思いやり、しっかりとした規範意識をもった人間に育てほしい。
 (参考すべき事項)
 教育関係法規の規定、時代や社会の要請や課題、教育行政の重点施策、学校や地域の実態と課題、教職員や保護者の願い、子供の実態と課題など
- ② 道德教育の重点目標のポイントを明確にする。
 (例) 「親切、思いやり」、「規則の尊重」
- ③ 道德教育の重点目標のポイントに関わる道德の内容を明確にする。
 (例) B-1)、C-1) (高学年の例)
- ④ 当該の道德の内容に関わる道德科以外の指導を明確にする。
 (例) ボールゲームで、規範意識について指導をする。(第2学年体育科)
 遠足で、公衆道德について指導する。(第4学年特別活動)
- ⑤ 道德科以外の指導の内容及び時期を明確にする。(別葉の作成)

各教科等で行う道德教育の実際として、次に、小学校音楽科での実践例を示す。

5 音楽科で行う道德教育の実際

(1) 音楽科で行う道德教育の意義

小学校音楽科の目標は、次のとおりである。

(『小学校学習指導要領解説音楽編』p.7)

表現及び鑑賞の活動を通して、音楽を愛好する心情と音楽に対する感性を育てるとともに、音楽活動の基礎的な能力を培い、豊かな情操を養う。
 ※ 道德教育を進める上で視点となる部分は、筆者が下線を加筆している。

音楽を愛好する心情や音楽に対する感性を育てることは、音楽のよさや面白さ、美しさに気づき、美しいものや崇高なものに感動する心など豊かな心を育むことにつながる。

また、音楽による豊かな情操は美的情操(音楽を美しいと感じ、さらに美しさを求めようとする柔らかな感性によって育てられる豊かな心)のことであり、道德性の基盤を養うものである。

なお、音楽の共通教材は、表2のとおり、我が国の伝統や文化、自然や四季の美しさ、友達や家族を愛する心などを含んでおり、道德的心情の育成に資するものである。

表2 小学校音楽科の共通教材と関連する道德の内容項目

年	共通教材名	内容項目
1	かたつむり	「自然愛護」
	日のまる	「伝統と文化の尊重」、「国や郷土を愛する態度」
2	かくれんぼ	「友情、信頼」
	春がきた	「自然愛護」
3	うさぎ	「感動、畏敬の念」
	ふじ山	「自然愛護」、「伝統と文化の尊重」、「国や郷土を愛する態度」
4	さくらさくら	「自然愛護」、「感動、畏敬の念」
	もみじ	「自然愛護」、「感動、畏敬の念」
5	こいのぼり	「家族愛、家庭生活の充実」、「伝統と文化の尊重」、「国や郷土を愛する態度」
	子もり歌	「家族愛、家庭生活の充実」
6	おぼろ月夜	「感動、畏敬の念」、「伝統と文化の尊重」、「国や郷土を愛する態度」
	ふるさと	「家族愛、家庭生活の充実」、「伝統と文化の尊重」、「国や郷土を愛する態度」

(2) 指導の構想と実際（小学校第6学年）

■ 道徳教育の重点目標
自他の生命を尊重し、郷土を愛する心をもつとともに、国際社会の一員としての自覚をもつ。

※重点内容項目（下線は本時）
「伝統と文化の尊重、国や郷土を愛する態度」，
「国際理解、国際親善」，「生命の尊さ」

■ 指導の構想

【題材名】
「につぼんのうた みんなのうた おぼろ月夜」

【題材のねらい】
歌詞の内容を生かし、旋律の美しさを味わいながら表現する。

【指導に当たって】

○ 歌詞の内容を生かす
文部省唱歌であるこの楽曲は、今日に至るまで教科書などを通じて歌い継がれている。その歌詞には、日本の原風景というべき菜の花畑と、春の穏やかな夕暮れの様子といった我が国の自然や四季の美しさが表れている。

指導に当たっては、文語体で書かれた歌詞の内容を理解し、美しい情景を思い浮かべながら、気持ちを込めて歌わせたい。

○ 音楽的な特徴を生かす
弱拍で始まり、4小節のゆったりとしたフレーズで進む旋律は、適度に心地よい抑揚をもっている。また、楽曲全体は大きく四つのフレーズで構成され、曲全体に流れるリズムに統一感がある。心地よい抑揚のある旋律と、統一感のある構成の美しさを感じ取りながら歌うようにする。

指導に当たっては、音楽的な特徴を感じ取りながら、歌詞の内容や曲想を生かした表現を考えて、それを美しい旋律にのせて心を込めて歌わせたい。

■ 道徳教育の視点
本教材には、日本の原風景というべき菜の花畑と、春の穏やかな夕暮れの様子が、美しい旋律にのせて表現されている。日本の自然や四季の風景の美しさを感じながら、心を込めて歌うようにすることが、郷土を愛する心をもった子供を育てることにつながる。

■ 指導の実際（T：教師，C：児童）

※ ねらいとする内容項目に関する発問には、筆者が下線を加筆している。

T 最近、どんな月を見ましたか。
C 満月です。
C 最近、曇や雨が多くて、月が見えません。
T そうでしたか。
では「おぼろ月夜」というのは、どんな景色でしょう。歌詞を見ながら歌を聴いてみましょう。
T どうでしたか。
C 一番は夕方、二番は夜の景色です。
C 美しい景色が目に見え、優しい気持ちになりました。
T そうですね。この歌詞には、どんな花が出てきましたか。
C 菜の花です。
T 菜の花を見たことがありますか。
C 春が近付いてきた頃に、よく見ます。
T この歌詞では、他にもいろいろな感覚を働かせて、日本の春の景色を表していますね。
C そよ風も春の感じがします。暖かい感じですよ。

C 優しい感じもします。
T いろいろな春の様子を感じてきていますね。それでは、美しい春の自然を想像しながら、表現を工夫していきましょう。

T みなさんは、最初に歌を聴いたとき、優しい感じがすると言っていました。
例えば、「「おいあわし」のところは、どんな歌い方をしたらいいのでしょうか。
C 優しい声で、気持ちを込めて歌ったらいいと思います。
T それは、どうしてですか。
C 辺りが暗くなり、景色が薄れていく中、月が出ているからです。
T いい情景ですね。他にはありませんか。
C 特に、「あわし」のところは、終わる感じがするので、一つ一つの言葉を丁寧に歌ったらいいと思います。
T 「おぼろ月夜」の歌詞には、日本の美しい風景がとてもよく表現されていますね。みなさんの工夫は、その歌詞を生かすことができるようなものになっていますね。

■ 考察
歌詞の情景を想像させていく中で、日本の原風景の素晴らしさや作詞者の思いに触れさせる学習を行うことで、郷土を愛する心を育む道徳教育を展開することができる。

学校の教育活動全体を通じて行う道徳教育では、児童生徒の道徳性の育成のために、道徳教育の目標に基づき、その内容を各教科等の特質を踏まえながら適切に指導する必要がある。

学習指導要領の一部改正（平成27年3月）において、「道徳の時間」に代えて「特別の教科である道徳（道徳科）」が位置付けられ、道徳教育の更なる充実が求められている。その趣旨を実現するためにも、道徳科での指導はもちろんのこと、学校の教育活動全体を通じて行う道徳教育を意図的、計画的に行うことが従来にも増して強く望まれる。

－引用・参考文献－

- 文部科学省Webページ『小学校学習指導要領』（一部改正）平成27年7月24日アクセス
- 文部科学省Webページ『小学校学習指導要領解説総則編（抄）』平成27年7月24日アクセス
- 文部科学省『小学校学習指導要領解説音楽編』平成20年8月，教育芸術社
- 文部科学省教育課程課・幼児教育課編『初等教育資料 11月号』平成25年10月
- 赤堀博行著『道徳教育で大切なこと』平成26年7月，東洋館出版社

（教科教育研修課）